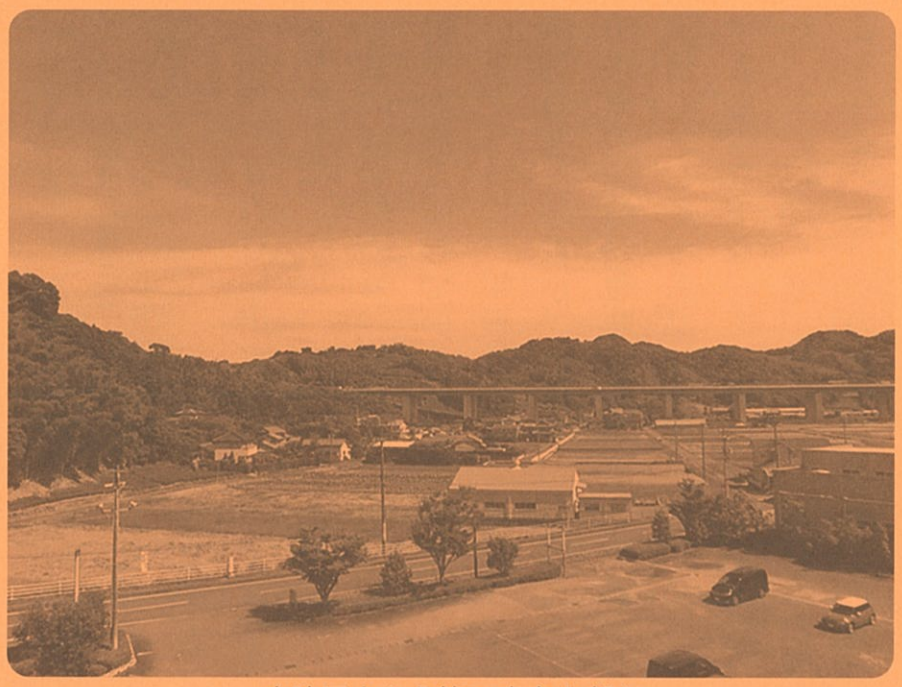
せいわ

藤枝市中ノ合26－1
医療法人社団八洲会
誠和藤枝病院
〈054〉638－3111（代）

診療時間
月～金
午前9:00 ～ 12:00
午後1:00 ～ 5:00



病院屋上から第二東名を望む

終末期医療（3）
―父の死―

誠和藤枝病院
医師　八木　誠

1975年の4月、私の医学部卒業を待ちかねたかのように、父は入院した。熱が出ながら長いあいだ近くの医院に通っていたのに、診断がついたときには、すでに終末期の肺門部の肺がんであった。現在のように本人に病名を告知するという時代ではなかった。兄と私のみが主治医に呼ばれ、病状は母にも伏せられた。「おれの病気は何なんだ？」と問う父に対し、「肋膜炎だよ」と嘘をつき通した。胸のレントゲン写真をお借りして、私の勤める京都の大学の放射線科の医師に診てもらったが、「反対側の肺にも小さな転移があり手術不能」とのことであった。

当時、化学療法を受けるかどうかという選択肢は、患者にはもちろんのこと、家族にもなかった。当然のごとく抗がん剤が投与された。にもかかわらず病状は徐々に悪化し、鎖骨の上のリンパ節がゴリゴリと触れるようになった。

7月末のある夜、危篤という連絡を受けて、京都から静岡に向けて東名高速をひた走った。一時的に持ち直した翌日、父はまるで自分の命の残り火を覚悟したかのように、私たち3人の子供を順番に呼び入れ、めいめいの今後の行く末を手短に諭した。最期は大量の吐血をきたし、血まみれの中で息を引き取った。医者になってからわずか4ヵ月、何人かの臨終にも立ち会ってきて、「人は必ず死ぬものだ」と頭の中では分かっていた。しかし主治医が来てくれるまでの間、心臓マッサージを続ける当直医師の姿を見つめながら、「何とか生き返って欲しい」と祈った、享年61。今から思えば、抗がん剤の副作用による胃からの出血だったのであろう。

あれから42回目の命日を迎えた。その間に、母と妻を看取り、数えきれないほどの患者さんの死に向き合ってきたが、人が亡くなるというのは、いつも切ないものである。苦痛が少なく穏やかに死に行くことを、常に願ってやまない。

妹のこと

3A病棟看護主任
半田桂子

先日、うれしい出来事がありました。

私には病気の為、やむを得ず施設入所している妹がいます。ここ一年程前より病気の進行からか、日付や出来事の記憶が曖昧になり表情も乏しく、会話や笑顔さえも少なくなっていました。会いに行く度、そんな妹を見ると私自身の気持ちも沈みがちでした。

そんな中、ふと妹が昔よく聴いていた歌を聴かせたところ、「懐かしい」と言い、口ずさみ始めたのです。私も嬉しくなって一緒に歌いました。五・六曲歌ったでしょうか、久しぶりに妹の明るい表情が見られ、その日は穏やかな気持ちで帰ることができたのです

元々妹は歌が好きだったので、いつでも聴けるようにとCDデッキを部屋に置いていたのですが、自分で操作が出来なくなり、忙しい職員さんには頼みづらいと、聴かなくなっていました。

歌を歌うと健康効果が得られると聞きます。例えば、歌うと唾液の分泌が増え、喉の潤いを守り、ウィルスや細菌が侵入しにくくなり、また飲み込む力が鍛えられ誤嚥性肺炎予防に繋がります。歌を覚えるには左脳、メロディーやリズムは右脳が刺激され脳が活性します。自然に腹式呼吸になり横隔膜が上下に動き、胃腸を刺激し消化の働きを促します。思い出の曲や懐かしい曲を歌い、当時の記憶を回想すれば認知症予防の効果が期待できるそうです。そして何よりストレス解消になります。

妹のように入院中の患者様は、療養の為とはいえ生活そのものが制限されてしまい、感情さえも押し込んでしまっている方もいると思います。歌うことで健康増進に役立つことは勿論ですが、楽しく明るい気持ちになって頂けることが一番大切なこと。そんな時間を提供できるようにしたいと思いました。

余談ですが、息子がダンスボーカルグループ「アマゾナイト」のメンバーとして活動しています。まだまだ無名な彼らですが、ユーチューブにライブ映像などの動画をアップしているので、ご覧頂けたら幸いです。

父の死から学んだこと

3A病棟介護主任
木村沙登美

後悔・・・後悔した事ありますか？

私は二年前に亡くした父に対しての後悔がたくさんあります。入院して一ヶ月。五十代とまだやりたい事もたくさんある年齢です。そんな父は病床で痛みと闘いながら「苦しい」「何も悪い事をしていないのに何で自分ばかり」そんな事を何度か口にしたことがありました。それを聞いた家族はとても辛い気持ちでいっぱいでした。背中をさすりながら小さな声で絞り出すように話す父の言葉を聞くと、「まだまだ生きたい。やりたいこともいっぱいあるのに・・・」という想いが伝わってきました。普段からそれほど喋る人ではなかった父でしたが、仕事は一生懸命でとても子煩悩、そして不器用な人でした。愛情をたくさん注いでもらった分、父にはあれをしてあげたい、これをしてあげたいという想いがたくさんありました。しかし実際にはほんの少しの事しかしてあげることは出来ませんでした。親はいて当たり前で過ごしてきた日々。しかしいつかは親の死と向き合わなければならない。楽しいことばかりではない。今出来る事を後悔のないように・・・。煩わしいと思う事もあるかもしれませんが、それも愛情の内、今は煩わしくてもいなくなってしまったら唯々寂しいだけ。いて当たり前の存在が目の前にいるだけで幸せなのだと、父がいなくなり学んだ気がします。病院で働き色々な人と出会い、人という大切な「命」をたくさん勉強させていただいています。先生、看護師、ヘルパー等病院スタッフの優しさに感謝しています。仕事の上でも皆さんに迷惑をかけてしまう事もありますが、病棟で患者様たち過ごす時間も後悔の無いように、色々なことに耳を傾けながら精いっぱい仕事に取り組んでいきたいと思います。〝笑顔〟しか取り柄のない私ですが、今後ともよろしくお願いします。

病院受付前の アイドルうさぎ

誠和藤枝病院
医事課（受付）

当院で飼っているうさぎ（ミニレッキス）の〝るる〟です。

現在
体重 1.9kg
年齢 30歳くらい

平成27年6月からアニマルセラピーの一環として当院に仲間入りしました。
来院される皆様に「るるちゃーん」と声を掛けてもらい、可愛がっていただいております。
最近では声を掛けるとケージの端に寄ってきて甘えてきたりします。
そんな愛されキャラの“るる”にリハビリ訓練室へ向かう患者様も、おでこを撫でたり話しかけたりして、自然と笑顔になる様子を見かけることが多くなりました。
“るる”と触れ合うことで癒され、“るる”を通して患者様・ご家族との会話が生まれ、良いコミュニケーションの場となっており、アニマルセラピーの身体的・心理的・社会的効果が発揮されています。

これからも“るる”を可愛がってくださいますよう、よろしくお願いします。

職員募集

◎正・准看護師
◎介護職員

詳しいお問い合わせは (054) 638-3111 担当 事務長まで

詳細は当院ホームページにて↓
http://www.seiwa-fujieda.jp/
ブログも更新中…！

編集後記

今年の夏は雨が続き、そんな天気が明けたかと思うと連日の猛暑日。予想の出来ない異常気象の連続に体調を崩す方も増えています。予想が出来ないと言えば、日本の政治も国際情勢も日々目まぐるしく変化しています。病院に携わっている以上、これからの医療政策について考えることも多いのですが、私が高齢者になる頃にはこれまたいろいろと違うわけで、想像力を相当鍛えないと今の私には中々ハードルが高いです。（O）

今回も院内報の制作にご協力くださった方々に感謝いたします。